

4/1 ハイパーカミオカンデの研究拠点として活用

神岡町でニュートリノ観測の次世代装置「ハイパーカミオカンデ」の建設が始まったことを受け、事業の着実な推進を図るため、東京大学宇宙線研究所のサテライトオフィスを神岡振興事務所内に開設しました。

このオフィスは、2027年に完成予定のハイパーカミオカンデの研究拠点などとして機能する予定で、同研究所および国内外機関の研究者や、技術サポートスタッフなどの関係者が利用する予定です。

この日は、同事務所でサテライトオフィスの開設式が行われ、実験代表者の塩澤眞人教授が「地域と大学の協力のシンボルとして活用する」とあいさつし、森田雄一郎同振興事務所長は「ハイパーカミオカンデが市民により身近な存在になるのでは」と話しました。



4/2 厚市の特定健診・特定保健指導の実施率がいずれも全国1位 厚生労働大臣から表彰されました

令和元年度の飛騨市国民健康保険特定健診の実施率が67.6%、特定保健指導の実施率が98.5%となり、いずれも全国の市・区814自治体のうちで第1位であるとして、厚生労働大臣から表彰状を受けました。

特定健診・特定保健指導は40歳～74歳の方が受ける健診で、メタボリックシンドロームかどうかを判断する検査項目が充実しているもの。健診結果でメタボに該当または予備軍に当てはまる場合、特定保健指導を受けていただき、生活習慣病の前段階といえるメタボを改善し、将来の脳卒中や心疾患等の発症を予防します。

特定健診・特定保健指導の実施率が高いということは、後期高齢者医療制度への拠出金が減算され、市国保加入者の保険料率の引き下げや、市民の皆さんの健康維持にもつながりますので、今後も積極的に受診しましょう。



4/2.3 空 宮川町種蔵の棚田で石積みワークショップ 積み技術の継承と棚田石積の修復

宮川町の種蔵地区で、棚田の石積み補修を学ぶ石積みワークショップが2日間にわたり開催され、過去にワークショップに参加した方や飛騨市の関係案内所「ヒダスケ」から延べ29人が参加しました。

このワークショップは、冬の積雪や雨の浸食などによって崩れた棚田の石積み補修を通して、コンクリートなどを使わずに自然石を積み上げて造る「空積み」の基本を学び、その伝統的工法の継承や棚田の保全を行うもので、市と板倉の宿種蔵の企画で毎年開催しています。

参加者は、30年以上石工職人として日本各地で石垣施工をしている今井了恵さんから、石積みの基本や積み方、勾配、内部の構造などを学び、傷んだ石積みを手分けして崩したり、手作りのクレーンや人力で丁寧に組み直しました。



4/6 百 和仁きぬ子さん百歳褒賞 歳おめでとうございます

神岡町麻生野の和仁きぬ子さんが百歳を迎えられました。これに合わせ、市民福祉部長の藤井弘史部長が自宅を訪問し、賞状やお祝いの花束、褒賞金を手渡しました。

和仁さんは、大正10年4月1日生まれ。昔は山之村や麻生野などで学校の先生をされていたようで、今も当時の教え子から手紙が届いているそうです。現在はヘルパーさんに身の回りのことをやってもらいながら生活されています。ご飯は自分で食べられているようで、特に甘いものが好きだそうです。

藤井部長が「百歳おめでとうございます。これからも元気で長生きしてください」とお祝いの言葉をかけると、和仁さんは「ありがとうございます」と笑顔で応えていました。





飛騨市

Facebook 公式アカウント

飛騨市役所



まちの話題に掲載しきれないイベントや写真は市の公式 Facebook で配信中。



まちの話題
いろいろ

4/8

安心してワクチン接種ができる体制づくり

飛騨市民病院が、新型コロナウイルスのワクチン接種を行う際の会場運営訓練を行いました。安全で速やかな接種を実現しようと実施したもので、同院一階の外来スペースに受付や問診、接種、経過観察などのスペースを実際に設営しました。

この日は同院スタッフの他、「飛騨市民病院を守る会」のメンバーも模擬患者として参加し、各人の状態を記した予診票や色分けされたファイルを手で各スペースを回りました。来場者が接種後に体調を崩した場合の対応、接種する際の手技の具体的な指導などもありました。

黒木嘉人院長は「午後の外来診療と並行して接種を行うため、いろいろな課題が出てくるかもしれない。多くの皆さんに安心してワクチンを打っていただける体制をつくりたい」と話していました。



4/10

城跡が国指定史跡になることを願って活動

古川町末高区の役員の皆さんが、姉小路氏が築城したと考えられている同町野口地内の市史跡「野口城跡」へ至る登山道の整備を行いました。大雪による倒木や路肩の損傷で通れなくなっていたため、土地所有者の方の支援も得ながら、通行の支障となっていた樹木の伐採作業などを実施されました。

登山道の整備は、地元有志の方が行ってきましたが、しばらく中断されていました。しかし、平成29年に野口城を含む町内の山城跡を国指定史跡にする動きが出てきたため、平成31年に再開を決められたそうです。

同区の役員の皆さんは「国指定史跡になることを願うとともに、今後も地域の貴重な文化財として守るための環境整備活動を行いながら、より多くの皆さんに野口城跡まで足を運んでいただきたい」と話していました。



4/10

少ない水での消火訓練を実施

県内一斉の山火事予防運動の一環で市消防本部古川消防署が、市消防団古川方面隊と連携し、古川町杉崎地内の山林で、山火事の消防訓練を行いました。春先は乾燥しやすく、野焼きや山菜採りのシーズンも迎えるため、毎年この時期に実施。取水困難な林野での消防資器材の取り扱いや消火活動の手順について確認しました。

この日は同署員16人、消防団員15人が参加。今回は、通常の水と比べて少ない水量で消火活動ができるよう、薬液を混ぜた泡水での消火訓練を初めて行い、消防ホースやジェットシューターで火点にめがけて放水しました。

中畑和也消防長は「雪がとけて山へ入る機会も増え、山林火災の危険が増してきました。風の強い時には野焼きをしない、山菜採りで山に入る時には火の取り扱いに十分注意するなど気を付けていただきたい」と話していました。



4/15

広葉樹のまちづくりをさらに加速

岐阜県立森林文化アカデミー特任教授で、造林技術研究所（各務原市）の横井秀一代表がこのほど、飛騨市・広葉樹のまちづくり推進アドバイザーに就任され、都竹市長がアドバイザー証を手渡しました。任期は来年3月31日まで。

横井さんは、県職員として永年にわたり林業に関わる技術の研究に取り組み、2010年からは同アカデミーで教鞭をとり、今年3月末で退官されました。今後はフリーランスとして林業や森林保全に関する研修の講師、大学の非常勤講師として活動の幅を広げていけます。月に1回ほど飛騨市を訪れ、森林や林業の現場の視察や研究、調査や会議などへの参加や助言などにあたられます。

横井さんは「これまで研究成果を現場に生かせないことが歯がゆかった。現場と一緒に考えていけるのが楽しみ」と話されました。

